

公益活動報告書(市民活動実績報告書)(令和6年度)

(宛先)岡崎市長

令和7年4月14日

団体名 千万町・木下ふるさとづくり委員会

代表者 荻野 嘉美

構成員 人(※令和7年4月1日時点の構成員数)

団体の目的: 団体の会則・規約に定められた団体の目的を記入してください。

会員が協働して、夢と希望あふれるふるさとづくりを根気よく継続していくことを目的とする

私達の団体が掲げる目的を実現した活動を、以下の項目に従って報告します。
 なお、記載内容を一般に公開することに同意します。

■1 団体の活動目的達成に向けて、今年度はどのような活動をしましたか。(公益活動に限る)

活動日 又は期間	場所	公益を受けた ものは?	受益者 (会員以外) 人数※1	活動内容
5月26日	千万町楽校	地域の人・都市住民など参加者	約100人	山の小さな音楽会(ヒマナシスターズの演奏と合唱)
8月25日	千万町楽校	地域の人・都市住民など参加者	約150人	夏の体験(ニジマスつかみとバーベキュー)
9月28日	千万町楽校	地域の人・都市住民など参加者	約100人	野外ジャズ
10月12日~ 14日	千万町楽校	地域の人・都市住民など参加者	約400人	アート作品展示・アート体験(野焼き・蒔絵・金継等)
12月1日	千万町楽校	地域の人・都市住民など参加者	約80人	冬の体験(お正月飾り作りと餅つき体験)
3月23日	千万町楽校 千万町棚田	地域の人・都市住民など参加者	約50人	千万町ミツマタ群生地と千万町棚田ウォーキング

※1 公益を受けたものが「人」ではない、数が把握できない場合は記載がなくてもよい。<ex.自然環境>

■2 前項1に基づき、1年間の団体活動で岡崎市(広く市民社会一般)に何をもたらしましたか。

山里のお宝である豊かな自然と人のつながりを活かしたふるさとづくりの活動は、参加者から貴重な体験で感動したという声を聴くことができた。
 地域の人々自身をも勇気づける活動として育ってきている。

■3 今年度の活動の公益性を自己評価し、付随する質問にお答えください。

①公益性の度合いを自己評価してください(数字に○をつけてください)

高い ← 5 (4) 3 2 1 → 低い

②上記の評価をした理由をお書きください。

コロナ渦で止まっていたいろんなイベントも、ほぼ以前の状態で復活して取り組むことができてきた。山里のお宝を活かしたふるさとづくりを継続することで、都市から来た参加者にも地域の魅力を発信することができた。地域の人自身にも勇気と元気を広げることができている。夢と希望あふれるふるさとづくりを根気よく継続できていることに価値があると感じている。